

## ボツリヌス菌 C3 酵素

01-513

10 µg

本品は、*Clostridium botulinum* C 型菌の培養液上清より陽イオン交換カラム、ハイドロキシアパタイトカラム、ゲルろ過カラムなどにより高度に精製したものである。本毒素は動物細胞の低分子量 GTP 結合タンパク質の Rho を ADP リボシル化し、下流の情報伝達経路を遮断する<sup>1)</sup>。分子量は 約 24kDa である (図 1)。

### 用途

- 1) 低分子量 GTP 結合タンパク質 Rho を介した情報伝達経路の研究

### 製品の性質

純 度 : SDS-PAGE (CBB 染色) で 90 %以上が C3 酵素  
性 状 : 50%グリセロール、5 mM リン酸ナトリウム緩衝液 (pH6.0)  
保 存 : -20°C (長期 ; -70°C)  
濃 度 : 1.33 mg/ml (Lot.02)

データリンク Swiss-Prot [P15879](#)

### 文献

1. Moriishi K *et al.* "Purification and characterization of ADP-ribosyltransferases (exoenzyme C3) of *Clostridium botulinum* type C and D strains." *J. Bacteriology* **173**, 6025-6029 (1991) PMID: [1917836](#)

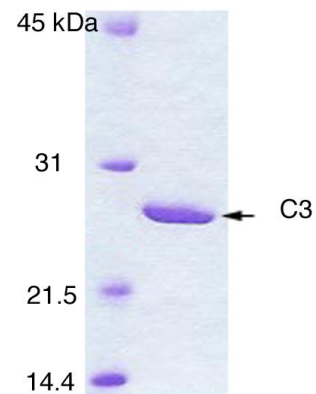


図 1. C3 酵素のポリアクリルアミドゲル電気泳動

\* 製品安全データシート (MSDS) は次ページをご覧ください。

## 製品安全データシート (MSDS)

### 製品名

ボツリヌス菌 C3 酵素

*Clostridium botulinum* C 型菌の培養液からボツリヌス菌 C3 酵素を、高度に (>90%) 精製したものである。

*C. botulinum* C 型菌の培養液には致死的神経毒がほとんど含まれてないことが、マウスへの筋注によって確認されているが、微量の毒素のコンタミネーションは完全には否定できないので、この酵素を扱う際には注意を払わなければならない。

### 形状

形状は 50 % glycerol, 5 mM リン酸ナトリウム緩衝液 (pH6.0)に溶解。

### 健康に対する有害性

C3 酵素は致死の毒性をもたないが、細胞障害活性を有し、皮膚に付着すると皮膚を刺激することがある。また、目も刺激することがある。

### 応急措置

皮膚に突き刺した場合、出血させて酵素を取り除く。また、患部を大量の水で十分に洗い流す。

注入した場合、直ちに医師の手当てを受ける。

### 取り扱い上の注意

この酵素は、注意深く扱わなければならない。

口によるピペッティングを避ける。

酵素取り扱い時は保護手袋を着用する。

傷に触れさせない。

体が酵素に接触した場合、接触部を十分に洗浄する。